

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100066		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター矢板		
所在地	栃木県矢板市東町1203-2		
自己評価作成日	令和2年11月16日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和2年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者様の皆様が毎日微笑んで生活が送れることを目指しています。
2. 介護度の高い方も積極的に受け入れております。
3. ニチイ学館の全国ネットワークを使い利用者様の多様な要望に応える事が出来る事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所では誠意と熱意をもって、日々の支援にあたっており、本人がしたい事、やれる事を見出し、日常生活の中で実践できるように支援している。
・事業所として、かかりつけ医の継続を可能な限りで支援している。また、利用者が健康的な生活を継続することができるように、食事のバランスを考えたメニューを提供したり、普段の生活の中で、歩行練習や体操など体を動かす機会を多く設けている。さらに、外部の訪問看護の支援を受けられる体制を整え、日々の健康管理を把握している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に利用者様の立場に立ち、その人らしく生き生きとした充実した生活が送れるよう毎日の目標を掲げ取り組んでいる。	事業所の理念として、利用者に対して誠意と熱意をもって介護することを掲げている。職員会議では、理念に沿ったケアが実践できているか確認を行うなど、理念の共有に努めている。また、新入社員には、入社した際に理念の説明を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の小規模と合同でイベント開催時にご家族、近隣住民の方々に参加して頂けるよう努めています。	通常は、地域でのお祭りや行事などに参加しているが、今年度はコロナ感染症の影響により、開催が中止となっている。地域住民とは散歩の時に、挨拶を交わしたり、事業所のお知らせをポスティングするなどして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出や散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり声掛けを行う事で親交を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期開催しており、その際に頂いた意見は改善できるよう支店と協議の上、次回開催時に報告しております。	現在は、コロナ感染症拡大防止のため、各メンバーに書面報告を行っている。書面内容として、入退所報告や活動内容、事業所内の行事報告などを伝え、各メンバーから意見を伺っている。意見があった場合は、職員会議などで話し合い、ケアの改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム交流会時に市の担当者様へ出席して頂き、意見交換を行い、事業所との協力関係の構築に努めております。	市の担当者とは、介護保険の加算や運営に関することについて相談する機会がある。直近では、コロナ感染症対策で市と話し合うことがあった。また、市内のグループホームが集まる交流会に参加し、他ホームや市の職員と意見交換することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回業務ミーティング時に身体拘束をしないケアについて協議しており、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。	身体拘束に関する内部研修では、職員が日頃のケアの振り返りを行い、ケアの見直しや気づきを促す機会としている。徘徊症状がある方でも、行動を制止したり、言葉で引き留めたりせず、可能範囲で見守りや付添いをして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を「しない・させない・ゆるさない」をスローガンに掲げ、防止に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回業務ミーティングにて権利擁護について学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の説明は管理者が行い、その際にもわからない所があれば細かくご説明させて頂き、特に利用料金に関してはご納得いただけるよう丁寧に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、弊社独自のアンケート、お電話等で利用者様やご家族様からの意見・要望・苦情等お聞きし、運営に生かしています。	利用者には、日常生活の中で意見を伺っている。外出や食事のことで多くの意見が聞かれている。家族は、運営推進会議や面会の時に、意見を伺ったり、アンケートを取って意向を把握している。利用者の生活やケアに関することが多い。それぞれの意見は、職員会議などで話し合わせ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務ミーティング時に意見交換を行い、提案、改善等の意見が反映出来るよう機会を設けています。	職員会議やミーティングの際に、職員から意見をもらっている。管理者は、普段から職員と接しやすさと話しやすさを心がけ、意見把握に努めている。支援の方法など、意見がある場合は、迅速に業務の見直しに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(時給)があり、定期的に個々への面談を実施、業務評価をするシステムがあります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で職員研修計画を作成し研修を実施、又新入社員には指導担当者を付け、3か月ごと、年間を通じて、それぞれで目標を設定し教育を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム交流会への参加により情報交換を通じ、サービスの質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも不安が解消出来ればということで、入居前に施設見学を実施させて頂いております。又施設内では話しにくい事もあるかと思っておりますので、ご自宅等に訪問し、困っている事や不安な事がお話し頂けるような関係性の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安が解消出来ればということで、入居前に施設見学を実施させて頂いております。又施設内では話しにくい事もあるかと思っておりますので、ご自宅等に訪問し、困っている事や不安な事がお話し頂けるような関係性の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に計画作成担当者の説明にて、利用者様、家族様のご意向を確認させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家庭の暮らしを利用者様と寄り添って過ごせるよう、散歩や野菜の収穫、洗濯ものたたみや料理等、共に行うことで信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を面会時やお電話にて説明、報告し、利用者様の病院受診時には出来る限り家族様に関わって頂けるよう、又大きなイベント時にはご家族様も参加して頂けるようご案内し、家族の絆を大切にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室や病院等へ行く機会がありましたが、現在、新型コロナウイルスのため、面会を謝絶していますが、以前は面会も自由出来るようになっており、ご友人がよくこられる方もいらっしゃいました。	通常、面会は自由に行われ、家族や友人などの馴染みの人との交流がある。現在は、コロナ感染症予防のため、面会制限を行い、不要不急の外出は避けている。それでも、電話で家族とやり取りをしたり、通院時に短時間面会を行ったりと工夫して対応している。	身近な人や場所との関係継続を少しずつ再開できるように期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションへのお誘いや席の配置交換等で誰もが孤立しないよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご相談がある場合は快く相談にのれるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを実施し、ご本人の希望や意向が把握できるよう、ご本人様・ご家族様から情報をお聞きしております。又日々の業務から利用者様の思いを汲めるように努めています。	半年に1度、センター方式のアセスメント表を用いて、本人の意向や思いを把握している。利用者の意向や思いは、会議やミーティングで話し合い、可能な範囲で叶えている。意思疎通が難しい方には、家族や友人など周りの人に伺い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや状況を、本人様・ご家族様、ケアマネージャー等からお聞きし情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、個別記録に一人ひとりの一日を細かく記載することで現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを通じて担当者会議等に、本人様・家族様の意向に沿った、又職員等の意見アイデアを盛り込んだケアプランの作成に努めております。	介護計画書は、管理者やケアマネージャーが作成するが、職員からも状態を聞き取るなどし、計画書に反映させている。また、介護計画書は利用者や家族に意向を伺いながら、本人の自立支援に繋がる計画書になるように立てられている。モニタリングは会議などで話し合われ、事業所一体で評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個別記録に記載し職員間で共有する事で、意見交換を行い、日々のケアや介護計画等の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態によっては、受診のサポートをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、新型コロナウイルスのため、ボランティアの受け入れはありませんが、落ち着いた後にボランティアの受け入れによる催しの開催や、訪問美容を受けてのおしゃれを楽しむ機会等を設け、楽しんでもらえるよう支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関やかかりつけ医に受診が出来るよう対応させて頂いております。又、かかっている病院と連携を取り合うことで利用者様が安心して生活が出来るよう支援しています。	かかりつけ医の継続が可能であり、利用者や家族が自由に選択ができる。受診対応は家族が行い、日常生活の様子については、事業所から家族に伝え、円滑な受診になるように取り組んでいる。また、外部の訪問看護と医療連携体制をとり、より利用者の健康管理をサポートしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや状態のチェックを行い、必要時には看護師に情報提供や相談を行い、情報共有に努め、適切な受診が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い情報交換や相談出来るように努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時等に重度化した場合を話し合い、弊社で出来ることを説明し、方針を協議しております。	看取り支援は難しいが、契約時や体調変化が生じた際に、看取りや重度化についての説明を本人・家族に行っている。訪問看護とも連携を図り、可能な限りで事業所での生活を長く、健康的に送れるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内ミーティングにてマニュアルに沿った事故対応、急変時の対応の研修を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練等の実施を行うようにしております。又地域住民の方にも協力して頂けるよう区長や民生委員に協力をお願いすると共にこちらからも近隣の住民の方にお声掛けを行っております。	年2回の避難訓練は、併設の小規模多機能型事業所と合同で行っている。消防署立会いのもと、夜間を想定した訓練を利用者参加で実施している。できるだけ、近隣住民の参加をお願いし、協力依頼をしている。また、3日分の備蓄も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないよう充分注意を払いつつ言葉かけ、対応をとるよう心掛けています。	本人の気持ちを大切に、性格を理解して、各利用者に合わせた声掛けや関わり方を心がけている。また、利用者それぞれの楽しみや役割ができるような支援にも努めている。入浴や排泄などの介助の際は、プライバシーを十分に守り支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様の訴えがくみ取れるよう、又自己決定に導けるような言葉かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り職員の忙しい雰囲気を出さずに、一人ひとりのペースで日々を過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出等の服装の選定のお手伝いや、化粧品等希望ある方には行わせて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け等できる範囲で一緒に行ったり、食事中に雰囲気や暗くならないよう音楽をかけたたりしております。	献立や食材購入は業者に発注しているが、調理は職員が行っている。季節の行事食や利用者が参加するおやつ作りも行っている。また、可能な利用者には、テーブル拭きや下膳などを一緒に行うことで、食の興味を持てるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下の状態によって食事形態を変えております。又水分摂取量を記録し、水分不足にならないよう促しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に合わせた口腔ケアを実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別記録に排泄を記録する事で排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けし、促す事でトイレでの排泄が出来るよう努めております。	排泄表で個人の排泄パターンを把握している。現在、おむつ使用者は1人であり、その他は、声掛けや誘導でトイレを利用している。車いすの方でも、立位や座位が保てる方には、トイレへ誘導し、安易な紙おむつ使用は行っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取の習慣づけや、食事の繊維物の提供、食後の排泄誘導等で便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく本人の希望に沿えるよう対応し、1日3、4人を目安に入浴を楽しんで頂けるようバスクリンや柚子を入れたりと変化をつけております。	基本、週3回の入浴ができるように支援している。1日の入浴者を少なくすることで、利用者がゆっくりと焦らずに入れるように配慮している。また、重度の方でもシャワー浴で対応するなど、状態に応じた入浴方法をとっている。その他、入浴剤の使用やゆず風呂の提供などで、入浴が楽しみになる工夫にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況によって静養して頂いております。又日中はなるべくレクリエーションや体操等で活動して頂き、夜間おやすみ出来るよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて目的、副作用等理解し、服薬の大切さを確認すると共に、症状等の変化に気付けるよう観察、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を振り返り、日々の中で楽しみや役割が見つかるようアプローチしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や庭の畑等に出かけております。年間の行事で花見等の見学も組み込んであり、なるべく外出する機会が設けられるように努めております。	例年は、花見や外出に出かけたりしていたが、現在はコロナ感染症の影響で自粛している。利用者と一緒に、近所を散歩したり外気浴を行うなどして、気分転換を図っている。	今後、感染症の状況を見ながら、可能な範囲での外出支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではありますが、自身で管理されている方もいらっしゃいます。その他上限1万円としてこちらでお預かりしており、必要時に購入できるようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に電話があり、自由に使用できるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の差し込みによる不快等ないよう注意を払っております。又寒暖の差がなく適温で過ごせるよう配慮しております。床は光が反射しにくいものとなっております。	居間兼食堂はととも広く、利用者それぞれの生活リズムで過ごせる空間となっている。また、利用者同士のコミュニケーションスペースにもなっており、利用者が作った作品も掲示されている。共有スペースでは、寒暖差が少なく、適温で過ごせるように空調の設備が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみの部屋を開放しており、談話等が出来るように環境整備をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談時に馴染みのものをお持ちいただいても大丈夫な事をお伝えし、相談しながらお持ち頂いて、居心地良く過ごして頂けるよう心掛けています。	各居室は明るく、清掃が隅々まで行き届いている。居室のレイアウトも、本人や家族で自由に決められる。筆筒やテーブル、思い出の品を持ち込む人が多い。身体状況などに応じて、居室環境を変える方もおり、職員が一緒に考えたり、アドバイスすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ水道は押せば簡単に水が出る仕様であり、排泄の自立を促したのとなっております。		